

仏教とはお釈迦さまが説かれた「苦しみの手放し方」です。

福厳寺住職 著書「苦しみの手放し方」出版にあたって

令和2年、2月20日。ダイヤモンド社より、著書『苦しみの手放し方』を上梓しました。今回の、僧侶としての初めての著書『苦しみの手放し方』には、私自身が抱えてきた苦しみと、その苦しみの手放し方が書いてあります。

そして、youtube番組『大愚和尚の一问一答』などを通じて、これまで私が相談を受けさせていただいた、多くの方々の苦しみと、その手放し方が書かれています。

私が苦しみのどん底にあつて、いつもすがったのは「仏様」でした。そして、苦しみのどん底にあつて、いつも答えを求めて開いた本は「経典」でした。

仏教とは、今から約2600年前にお釈迦さまが説かれた「苦しみの手放し方」です。2600年の時を越えて、国境を越えて、民族を超えて、性別を超えて、過去の賢者たちによって命がけで受け継がれてきた、苦しみの手放し方です。

もし、あなた自身が、人には言えぬ苦しみを抱えておられるとしたら、ぜひ本書を手にとってみてください。

もし、あなたの大切な人が、人知れず苦しんでおられるとしたら、そつと本書を薦めてあげてください。

またこの本は、編集者さんからの、5年間、150時間にも及ぶ取材を経て上梓されました。その間、編集者さんには、私自身の奥底に埋もれていた私の過去や感性を掘り起こしていただきました。

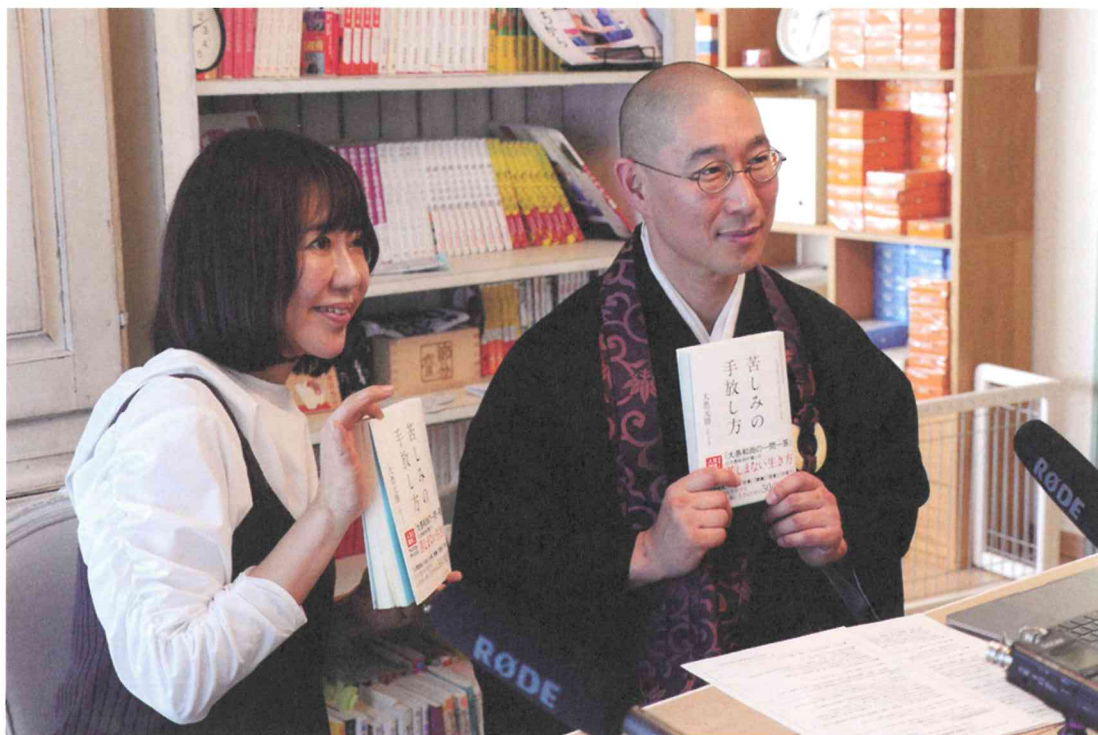
「本は著者の人生そのものです。だから大愚さんの本も命がけで作らせていただきます」とは、本づくりの契約を交わした時の編集者さんの言葉です。

「本は著者の人生そのもの」という、編集者さんの言葉通り、この本は、福厳寺の会員さんはじめ、私の人生で出会ったすべての方々のお陰であり、共著だと感じています。この場を借りて、皆さまに感謝申し上げます。有難うございます。

「苦しみの」の最中にある、一人でも多くの方が、本書に出会って、苦しみを手放されますことを祈りつつ…。

佛心宗 福厳寺

住職 大愚元勝



和田裕美さんのラジオ『WADA CAFE』(FM FUJI)収録終わりに